令和3年度　環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会　発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より"環境整備"に取組む	✓
昨年度から引き続き"環境整備"に取組む	
昨年度までの"環境整備"を経て、今年度より事業化に取組む	
昨年度までの"環境整備"と"支援チーム派遣（事業化支援）"を受けて引き続き事業化に取組む	

活動団体名：天理市環境連絡協議会

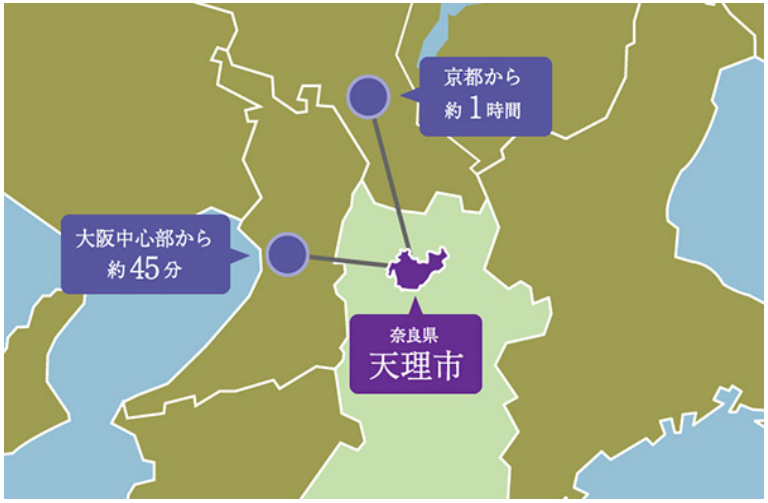
活動地域　：奈良県　天理市

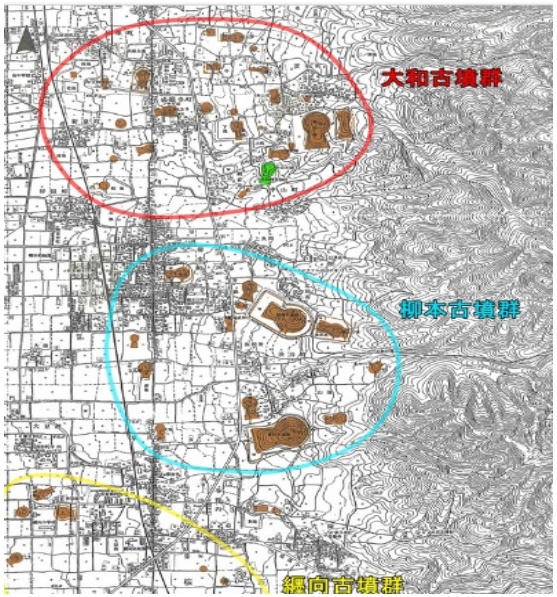
活動テーマ　**環境・エネルギー・まちづくり**

防災を軸にしたエコシティ天理SDGs推進

天理市

- 人口　　63,000人
- 歴史、文化、宗教
- 教育、スポーツ
- ベッドタウン
- 農地、里山、山辺の道





奈良県教育委員会発行資料より

活動団体紹介　天理市環境連絡協議会の概要

・設立：天理市環境基本計画のもと、地域連携と協働の場として2015年2月に設立

・構成：市民、市民団体、事業者、学識経験者、天理市

・活動：天理の環境をより良い状態で次世代に引き継ぐこと目的に5つ部会で活動

＜緑の保全部会＞＜ストップ温暖化部会＞＜まちづくり・観光部会＞
＜ごみ減量部会＞＜環境教育部会＞

落ち葉かき（肥料に活用）

布留川清掃（ホタルが棲息）

環境フォーラム

天理ダム視察（小水力発電）

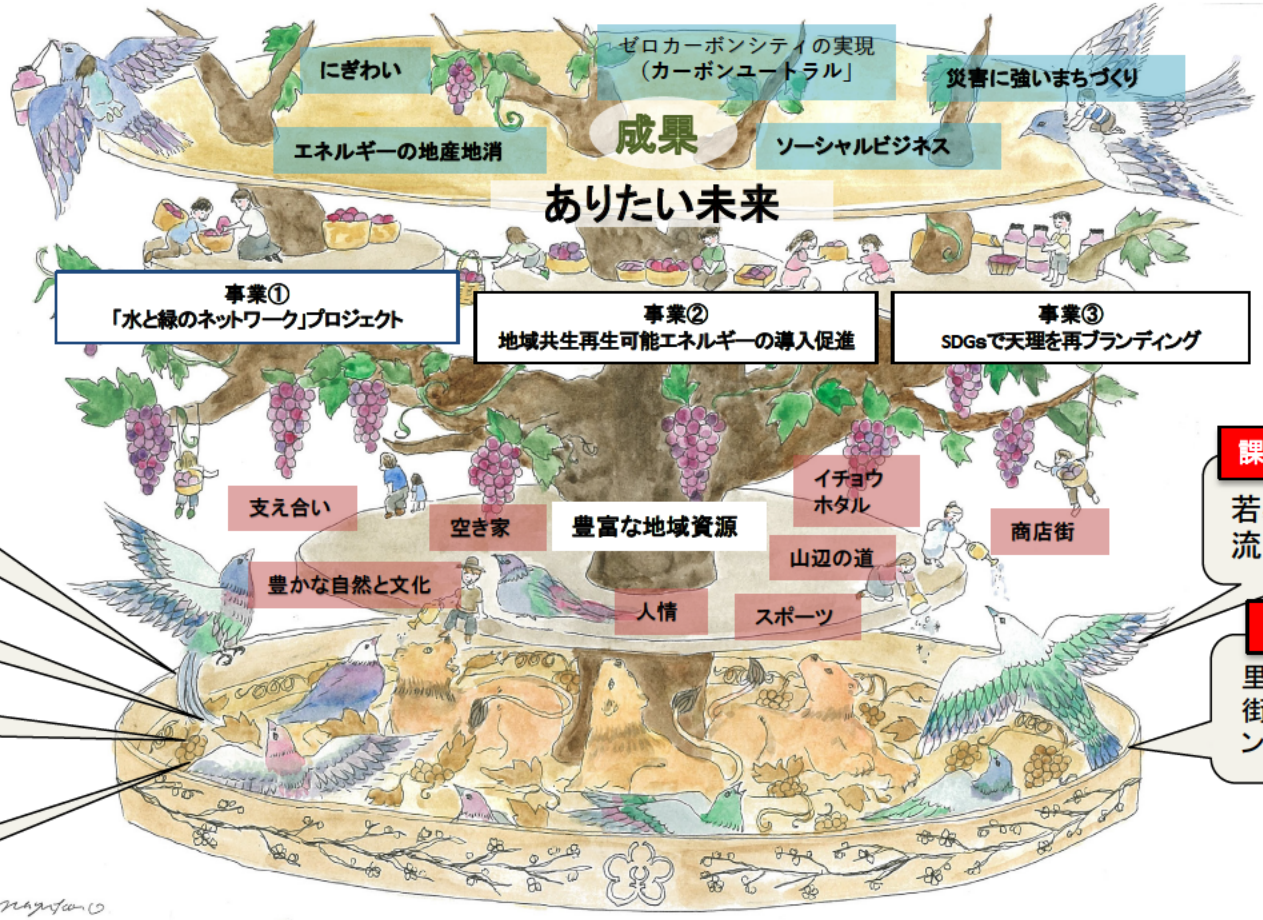
子ども工作教室（ソーラーランタン）

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

地域循環共生圏
エコシティ・天理

サトの豊かさ
これからも住み続けたいまち天理
マチの魅力

ありたい未来：市民や事業者が連携し、人々が愛着や生きがいを持ちながら、いつまでも安心して暮らせるまち



The Future

The Past

課題
商店街の衰退と空き店舗対策

課題
耕作放棄地・空き家対策

課題
ゼロカーボンシティの実現

課題
モビリティ

課題
若者の市外流出超過

課題
里山の荒廃、街路樹のメンテナンス

立体マンダラの底辺に据えたのは市内で出土した「海獣葡萄鏡」（8世紀）です。地域の歴史や文化に育まれて、いまの天理市があることから原点として捉えました。動き出した海獣や鳥たち、葡萄の木が豊かな実を実らせながら未来に伸びて、人々が日々の生活をしています。地域の取材をしてくれた大学生が描いてくれました。葡萄鏡の縁には天理市の市章と市の花「梅花」があしらわれていることにも着目してください。

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと①

・ステークホルダー会議

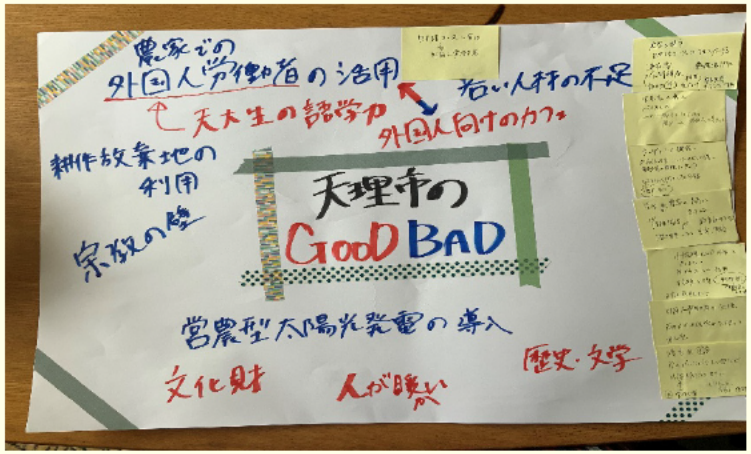
昨年、５月から、本年１月まで５回のステークホルダー会議を開催。前半は情報提供、共有化を図り、後半はフリーな意見交換を行った。その間、ステークホルダーは倍増した。

・地域資源視察、ステークホルダー交流会（９月４日）

天理のまちなみ、里山を訪れ、商店街の歴史講演、見学、交流を図った。

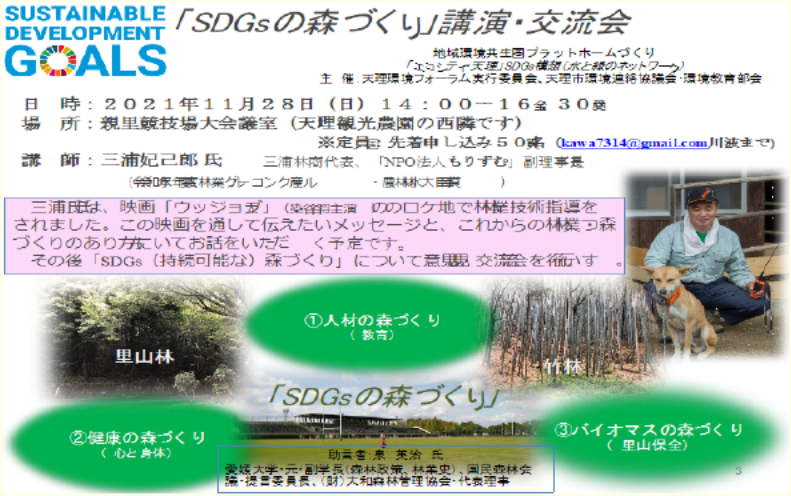
・ワークショップ

・５月、天理市中心地区の商店街で天理大学学生が中心となり、地域の方々、協議会メンバーが参加し天理の良さ、課題についてブレーンストーミングを行った



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと②

・SDGsの森づくりをテーマに現地において、
ステークホルダー、大学生、高校生が参加、
里山づくりを実践講座等
を開催、意見交換を行った。



・地域共生再エネ関連のステークホルダーで、
リモートワークショップを開催、
オンラインホワイトボード「Miro」を活用し、
意見をボードに添付し、分類整理した。

・**意見交換会（１０月２７日）**
きんき環境館、近畿地方環境事務所と
共催し、地域課題、未来像などを
ステークホルダー間でワークショップを行い、
マンダラ作成につなげた。

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと③

・フィールドワーク

天理市の耕作放棄地で、地元の自治会と天理大学学生が交流プロジェクトをつくり約4000本のヒマワリを植えた。これを切口に若者と地域の方々のコラボを広げる。

・調査研究

・公共施設へのレジリエンス太陽光発電システム等地域共生再エネのポテンシャル量研究や現地調査を行い導入可能性を検討した。

・市内中心を流れる川に生息するホタルの飛翔数、水質調査や里山の植生調査を行った。

・天理環境フォーラムー「エコシティ天理SDGsのまちづくり」

天理市内外の市民を対象に、11月20日『せやろがいおじさん』の環境講演と市長との対談を開催。その後12月３～５日環境展を開き、小学生対象の環境講座を開催。

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと④

・天理市プラットフォーム事業活動周知チラシの作成、配布

取り組みを通じた地域プラットフォームの変化

・ステークホルダーの多様化

キックオフ時点では１０団体の参加であったが、地域外の専門家団体も参加いただき現在は２１団体に増加。
また、近畿財務局の方等、ステークホルダー会議にオブザーバーとして参加いただいている。

・自治体の意識

レジリエンス太陽光発電システム等、地域共生再エネの意義を行政の担当部署や行政トップに粘り強く伝えた結果、公共施設から率先実現に向け取組がスタートした。

・地域の方々への広がり

天理環境フォーラムが開催でき、「せやろがいおじさん」の環境講演、市長との対談を多くの方々が聴講、環境展でも市民、小学生が来場いただき、活動が周知できた。

取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

・環境共生圏が、地域の事業創造につながることの訴求が難しい。

→モデル事業の実現が必要

ex. ・耕作放棄地の農地復元と脱炭素の融合ビジネス

・里山でのSDGs森づくり事業

・ローカルSDGs、脱炭素推進を進める地域の中核人材、専門人材の発掘が必要である。

ex. ・若者への環境教育と定着

・厳しい自治体財政、地域経済下での事業化スキームの工夫が必要。

・コロナ禍のため、地域の方々との接触の難しい状況である。

今後の展望

・SDGsの森林づくり

親里競技場を中心に、①人材の森林づくり、②健康の森林づくり、③バイオマスの森林づくりを大学、関連団体と連携し事業化検討。さらに、隣接する奈良県立文化・芸術村や他プロジェクトと連携し、バージョンアップを図りたい。

・地域共生再エネモデル事例の具体化、地域再エネ電力設立構想

レジリエンス太陽光発電システム、営農型ソーラー、里山バイオマス活用のモデル具体化と地域法人、市民が参画した地産地消の再エネ電力事業の内容、体制、事業性などの構想検討したい。

・ガストロノミーエコツアー

食を通じて地域を理解するというガストロノミーツーリズムにエコロジーを組み合わせて、曼荼羅に描いたようなエコシティ天理の地域資源を訪ねてもらい、新たな旅の事業を天理大学学生、ツーリストを母体に行政の支援を受けて行いたい。

・環境人材の養成

エコシティ天理の実現には環境人材の養成が不可欠で、NPO環境市民ネットワーク天理が「まほろばエコロジー講座」を開講し、検定試験により大学生を中心に環境人材を養成して、その大学生たちの行動を原動力に、市民の環境意識を高めたい。　学生たちは卒業後も環境に携わる人材として活躍するよう図りたい。